

子どもの健康と病気の予防②③

- 麻しん(はしか) -

小宅医院 小宅民子

今年に入り、麻しん(はしか)の感染者が増加しています。10月までに、都市部を中心に34例が報告されています。新型コロナウイルスが5類感染症に変更になったことで人の往来が増えたことや、コロナ禍において、ワクチン接種率が低下したことが原因と考えられます。

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染です。感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

10〜12日間の潜伏期を経た後に発熱が2〜4日間ほど続き、喉の痛み、鼻水、咳、充血、目やなどの症状が現れます。その後いったん熱は下がるものの、半日程度で39℃前後の高熱が現れ、おでこ、耳の後ろ、首などに赤い発疹がで、2日ほどで全身に広がっていきます。3〜4日間すると徐々に熱が下

がり、7〜10日間で回復します。特別な治療はなく、対症療法(症状をやわらげる治療)をおこないます。

麻しんは感染力が強いですが、ワクチンによって防げる感染症です。1歳になったらできるだけ早く1期(1回目)の麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を受けましょう。また、2期(2回目)は、小学校就学前の1年間にワクチンを受けます。1回のワクチン接種により麻しんの免疫ができる割合(抗体陽転率)は約95%です。周囲で麻しんの流行があると、免疫のつかない約5%の方は発症する可能性があります。より確実に免疫をつけるためにMRワクチンの2回接種を行います。2回接種で約99%の人が免疫を獲得できます。



麻しん(はしか) 5つのポイント!

- ①今年に入り感染者が増加
- ②感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染
- ③免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症する
- ④特別な治療はなく、対症療法(症状をやわらげる治療)をおこなう
- ⑤感染力が強いが、MRワクチンによって予防できる

